たてものを、いきものに

LIVZON

第72期　報告書

2022.04.01▶2023.03.31

2023 BUSINESS REPORT

大成温調株式会社

証券コード:1904

株主の皆さまへ

たてものを、いきものに

LIVZON

株主の皆さまには、日ごろから格別のご支援、ご愛顧を賜り、厚く御礼申し上げます。

ここに当社、第72期の業績についてご報告申し上げるにあたり、謹んでご挨拶申し上げます。

当社をめぐる事業環境は、新型コロナウイルス感染症の影響から回復途上にあり、需要の急回復を実感しています。一方で、人手不足の課題に加え、資機材価格の上昇や大都市圏の再開発をはじめとした案件の大型化・長期化などの要因があり、収益の確保に苦慮した一年でした。このような状況のなかでも、採算管理の仕組みを変更したことにより、目標を上回る成果をあげることができました。今後は、DXの進捗も展望しながら、さらなる利益を確保できる施策を講じてまいります。

第73期は、中期経営計画「LIVZON DREAM 2030 1st half!」の3年目にあたります。当社グループは、「総合たてものサービス企業」実現へ向け、コア事業の収益性改善と成長のための土台作りを進めてまいります。

最後に株主の皆さまにおかれましては、今後とも一層のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

大成温調株式会社
代表取締役社長執行役員　水谷憲一

経営陣のご紹介

代表取締役社長執行役員	水谷憲一	取締役副社長執行役員	志田憲彦	取締役専務執行役員	玉置雅幸
取締役専務執行役員	川上　徹	取締役常務執行役員	今井康之	取締役常務執行役員	岡田浩二
取締役	大江太人	取締役	野口光男 ※	取締役	大久保和正 ※
取締役	伏見幸洋 ※	取締役	松下香織 ※		

※監査等委員

注）大江太人氏、大久保和正氏、伏見幸洋氏、および松下香織氏は社外取締役であります。

スペシャル対談

山岡：2023年３月期は、利益面で計画を大きく上回る結果となりました。振り返りをお願いします。

水谷：　新型コロナウイルス感染症の影響による停滞から経済活動が徐々に回復の兆しを見せる中、23年３月期は、需要の急回復を実感しています。弊社を取り巻く環境としては、人手不足の常態化に加え、資機材価格の上昇や大都市圏の再開発を中心に案件の大型化・長期化など、向かい風が吹いている状況の中、全社をあげて原価低減や採算性の改善を図り、目標を上回る利益を創出することができました。

山岡：今年の対談には、2021年の業務提携以来、様々な形で大成温調の企業変革を支援しているアドバンテッジアドバイザーズ社（以下「AA社」）から、プリンシパルの鈴木雄斗さんにもご参加いただいています。AA社と大成温調の関係について、お聞かせください。

鈴木：　弊社（AA社）は、大成温調が掲げる「総合たてものサービス企業」への進化を「利益率・生産性向上プロジェクト（PJ)」や「DX推進PJ」、「M&A推進PJ」などを通じて後押ししています。助言役としての対価は、いわゆるフィー（助言料）ではなく、新株予約権の第三者割当を引き受ける形で受け取っています。つまり、大成温調の経営陣や従業員の皆さまと一体となって企業価値の向上を果たすことは、私どもにとっての利益にも直結する仕組みになっています。その意味で、この記事をお読みくださっている株主の皆さまと、私どもAA社の目指す方向は一致しているという点を、ご理解いただければと思います。

スペシャル対談

水谷：　従来進めてきた構造改革には一定の成果が得られていたものの、私自身を含めた自社の力のみに頼る方法では、どうしても自らの経験の範囲内でしか物事を捉えられない点に限界を感じていました。積極的に外部の知見、具体的にはAA社が持つテクノロジーや考え方、情報の分析手法などをブースターとして、長期ビジョンに描いた未来の実現に一気に近づきたいと考えました。

山岡：アドバイザーの立場からみて、鈴木さんは、大成温調のどのようなところに可能性を感じていますか。

鈴木：　第一に挙げられるのは「機動力」です。大成温調の場合は、若い経営者のリーダーシップの下、勇気ある決断と行動変容に躊躇しない点を踏まえ「機動力」を発揮しやすいのが印象的です。また、建設業界は成熟した産業であるにもかかわらず、大成温調はその企業規模に比べて相当なDX投資を実行しており、M&Aにも積極的な「グロース企業」という見方も可能です。成長戦略を支える上では、大成温調の強固な財務体質も大きな「原動力」であると捉えています。

山岡：業務提携を通じて、これまでに実施してきたことや、その成果について教えてください。

水谷：　業務改革PJを通じて業務プロセスの刷新を進めています。終了した23年３月期について言えば、受注における採算管理の精度が向上した点に、成果の一端を感じています。同PJでは、弊社が過去に行った膨大な数の工事実績を様々な角度から詳細に分析しました。その結果、これまでは個別の経験則に頼って判断していた受注工事の採算見通しを、一元的かつ透明性のあるモノサシで測ることが可能になってきました。この動きは「原価統括部」の機能強化という具体的な組織改編にも繋がり、収益率の改善という、目に見える成果を生み始めています。

鈴木：　建設業界の特徴として、受注における採算見通しの改善が、会計上の利益に反映されるまでには時間差が生じます。そのことを含めて、大成温調の収益性改善の余地は十分に残っていると感じています。統一的に原価をコントロールすることは適切な売価設定にも繋がり、物価上昇の圧力に対しても企業全体としての耐性が、徐々に備わってきていると感じています。

山岡：協働プロジェクトは、どのように運営されているのですか。現場のようすをお聞かせください。

水谷：　当然ながら、PJの運営主体は大成温調です。３つのPJチームは、それぞれ統括責任者である役員と、中堅社員を中心に構成されています。そこにAA社からのアドバイザーが加わっ

て議論を行い、取り組むべきテーマを洗い出し、仮説・対策を立ててPDCAを回していくイメージです。

鈴木：　PJの運営については、この２年間でかなりの変化がありました。当然ながら、大成温調の社員の皆さんには、当初は半信半疑な姿勢があったように思います。私自身のパソコンを開いてみると、提携当初には相当な量の分析資料が残っていて、アドバイザーである弊社（AA社）側が手を動かしていたことを思い出すのですが、時間が経つにつれて徐々に大成温調側の方々が主体性を持つようになってきました。例えば、２つのPJが23年３月期のうちに「業務改革PJ」に統合されました。これは私どもAA社ではなく、PJに参画している大成温調の中堅社員の方々からの「業務手順を最適化した上でDXの取り組みに連動すべき」という提言によるものです。統合によってPJの難易度は質・量ともに高まるのですが、今や社員の皆さんが我が事としてオーナーシップを持って推進されています。

水谷：　鈴木さんはじめAA社の方々とは月に１～２回、議論の場を設けていますが、それ以上に、大小様々な改革に向けた提案や試行錯誤が、弊社の社員の間から自然に生まれ始めていることに手応えを感じています。今回の業務提携を決断する前は「ゴリゴリな壊し屋」が乗り込んできて社内にハレーションが起きるのではないかと心配もしたのですが（笑）、実際には、自然な形で背中を押してくれる「優しいコーチ」に、会社全体が背中を押されている感覚です。

山岡：ESGへの関心が高まっています。大成温調の社会に対する役割について、お聞かせください。

水谷：　弊社のビジネスモデルは、お客さまの省エネやCO_2排出量の削減、環境負荷の低減など、Environment（環境）に大きく貢献できると考えています。そこで今期からリニューアル工事やファシリティサービスといった、すでに建物を、お持ちのお客さまにサービスを提供できる部門を強化しました。今後、ESGの切り口でのお客さまへのご提案を増やしていきたいと考えています。

山岡：最後に、株主の方々へのメッセージをお願いします。

水谷：　今後、積極的に情報発信をしてまいりますので、株主の皆さまにおかれましても、弊社の動向に注目していただければと考えております。株主の皆さまのご期待にお応えすることができるよう努めてまいりますので、引き続き、ご理解とご支援を、何卒よろしくお願い申し上げます。

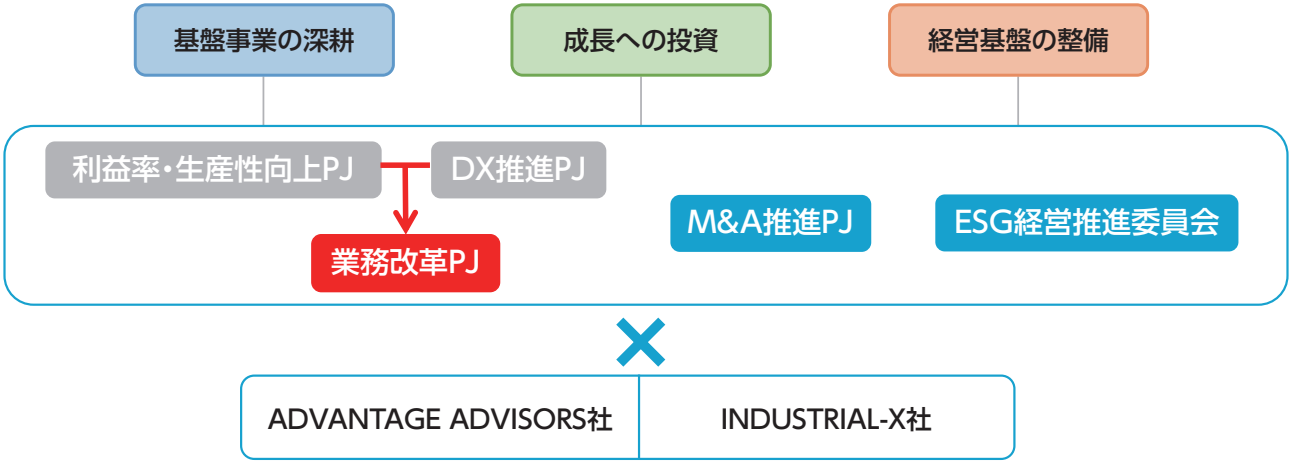
山岡：大成温調の企業価値向上を目指す、AA社をブースターとした業務提携の今後に、ますます期待が高まります。本日は、ありがとうございました。

中期経営計画「LIVZON DREAM 2030 1st half!」の進捗

業務改革PJ

■「利益率・生産性向上PJ」と「DX推進PJ」を統合し、「業務改革PJ」を発足しました。

■ 前例・慣習にとらわれない視点を積極的に取り入れ、抜本的な業務改革を推進してまいります。



M&A推進PJ：ウッドテックの株式取得

■ 2023年5月、ウッドテック株式会社を当社グループに迎えいれました。

■ ウッドテックは、千葉県を中心に東京都、茨城県において、消火設備工事、一般管工事等の事業を展開して豊富な実績を積んでおり、専門的な知見と経験を有しています。

■ ウッドテックの株式取得により、首都圏における消火設備工事をはじめとする施工管理機能やサービス提供力を拡充・強化することで、「総合たてものサービス企業」への歩みを加速してまいります。

ESG経営の推進

■ ESG経営に向けて下記の施策を実施しています。

Environment

施工物件でのZEB ready認証取得

明治大学　和泉ラーニングスクエア

・外部テラスによる日射熱熱負荷抑制
・太陽熱集熱ダクトによる熱源システム効率向上
・床吹き出し空調による搬送動力低減

➡ **ゼロカーボンに向けた種々の技術導入により ZEB ready認証取得**

LCA手法の開発協力

安藤ハザマ東北支店ビル　完成イメージ

・㈱安藤・間により、建物ライフサイクル全般にわたる高精度のLCA手法開発が進められる
・安藤ハザマ東北支店建設工事において、設備工事でのCO_2排出量算定を担当

➡ **同手法の活用によりCO_2排出量の可視化が可能**

Social

地域貢献活動の実施

2023年5月　ビーチバレー大成温調カップ

2023年5月　スポGOMI in 大井

働きやすい環境の実現

・テレワーク制度の導入
・ストレスチェックの実施
・EAP相談窓口の設置

人材育成

・1級建築士資格取得支援
・1級管工事施工管理技士資格取得支援

Governance

コーポレートガバナンス体制

・ガバナンス関連規程の見直し
・新社外取締役の選任（6月定時株主総会にて付議）

TOPICS

TAISEI ONCHO VIETNAM HOLDINGS設立

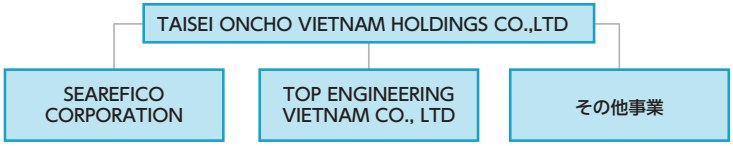
ベトナム事業の再編・拡大

・現状2事業（投資事業、オフショアエンジニアリング事業）を個別運営

➡ リスク管理と資源配分の一元化や相乗効果といった統合メリットの追求と投資機会の拡大のため、ホールディング会社化

将来的な姿

・ベトナム部門のプレゼンスを拡大し、米国・中国に次ぐ“第三の柱”へ



丸高工業と業務提携

当社は、2023年4月、株式会社丸高工業と業務提携しました。

丸高工業は、既存建物の内装工事および耐震補強工事等の改修専門工事会社であり、現場作業で発生する騒音や振動を低減する工具・工法を「サイレントシステム」として自社開発し、建設業界の生産性向上を実現しています。

当社と丸高工業は建築内装工事を主とする「サイレントシステム」工法を、建築・設備一体としたサイレントシステム工法として発展させるとともに、当技術の共有を中心とする相互技術の有効活用を推進してまいります。

たてものを、いきものに
LIVZON
大成温調株式会社

株式会社 丸高工業

CSRに力を入れています

FMしながわ（88.9MHz）「大成温調 presents Pick Up しながわシティ」を始めました

毎月第二、第四金曜日　午後12:00頃
「シナガワンラジオ～outside」の
ワンコーナーにて放映中。
インターネットでの聴取方法は
下記のURLをご参照ください。
https://fm-shinagawa.co.jp/

中間報告書廃止のお知らせ

これまで中間決算時に送付させていただきました「中間報告書」ですが、昨今のESGの流れを受けまして廃止することにいたしました。今後はホームページによる情報発信を充実していきますので、是非、ご覧ください。

株主さまアンケートご協力のお願い

当社では、株主の皆さまの声をお聞かせいただくため、アンケートを実施いたします。お手数ではございますが、アンケートへのご協力をお願いいたします。
（所要時間は５分程度です）

ご回答いただいた方の中から抽選で薄謝（QUOカードPay500円）を進呈させていただきます

●アンケート実施期間は、本書がお手元に到着してから約2ヶ月間です

①下記URLにアクセス　②アクセスコード入力後にアンケートサイトが表示

https://www.e-kabunushi.com

アクセスコード　1904

以下の方法でもアンケートにアクセスできます

検索窓から　いいかぶ　検索

kabu@wjm.jp ←こちらへ空メールを送信
「件名」「本文」は無記入。アンケートのURLが直ちに自動返信されます。

スマートフォンから
カメラ機能でQRコード読み取り→
QRコードは株式会社デンソーウェーブの登録商標です。

本アンケートは、株式会社リンクコーポレイトコミュニケーションズの提供する「e-株主リサーチ」サービスにより実施いたします。 https://www.link-cc.co.jp

アンケートのお問い合わせ　「e-株主リサーチ事務局」
MAIL：info@e-kabunushi.com

連結財務諸表（要約）

連結貸借対照表

（単位：百万円）

科目	2022年3月31日現在	2023年3月31日現在
資産の部		
流動資産	27,663	28,587
有形固定資産	6,024	6,523
無形固定資産	395	276
投資その他の資産	6,144	5,788
資産合計	40,228	41,175
負債の部		
流動負債	15,357	15,742
固定負債	174	177
負債合計	15,531	15,919
純資産の部		
資本金	5,195	5,195
資本剰余金	5,132	5,132
利益剰余金	14,159	15,086
自己株式	△634	△1,503
その他有価証券評価差額金	573	500
為替換算調整勘定	242	840
退職給付に係る調整累計額	16	△7
新株予約権	11	11
純資産合計	24,696	25,256
負債純資産合計	40,228	41,175

連結損益計算書

（単位：百万円）

科目	2021年4月 1 日から 2022年3月31日まで	2022年4月 1 日から 2023年3月31日まで
売上高	49,153	46,459
売上原価	43,461	39,926
売上総利益	5,691	6,533
販売費及び一般管理費	4,436	4,800
営業利益	1,255	1,732
営業外収益	512	492
営業外費用	68	226
経常利益	1,700	1,998
特別利益	223	42
特別損失	611	119
税金等調整前当期純利益	1,312	1,921
法人税、住民税及び事業税	420	203
法人税等調整額	△82	249
当期純利益	974	1,469
親会社株主に帰属する当期純利益	974	1,469

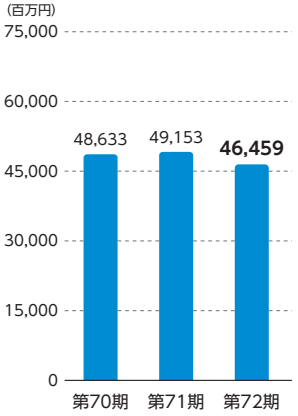
連結キャッシュ・フロー計算書

（単位：百万円）

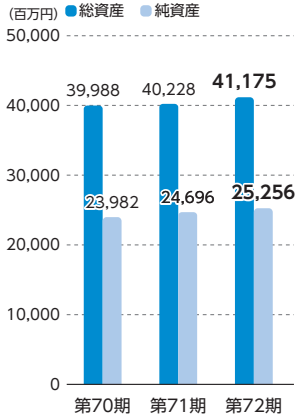
科目	2021年4月 1 日から 2022年3月31日まで	2022年4月 1 日から 2023年3月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	△533	719
投資活動によるキャッシュ・フロー	42	△241
財務活動によるキャッシュ・フロー	△878	△1,377
現金及び現金同等物に係る換算差額	451	286
現金及び現金同等物の増減額（△は減少）	△917	△612
現金及び現金同等物の期首残高	12,983	12,066
現金及び現金同等物の期末残高	12,066	11,453

記載数字は、表示単位未満の端数を切り捨てております。

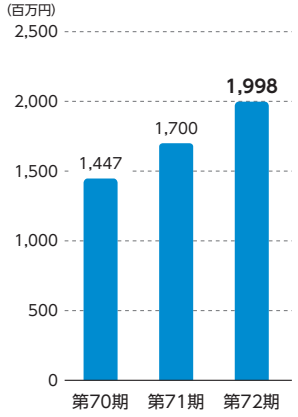
○売上高



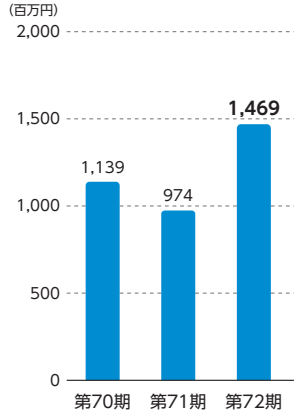
○総資産・純資産



○経常利益



○親会社株主に帰属する当期純利益



当社のHPでは、詳細なIR情報を掲載しております。
https://www.taisei-oncho.co.jp/ir/

重要な経営指標（KPI）

	2022年３月期	2023年３月期	2026年3月期（目標値）
営業利益率	2.6%	3.7%	5.0%以上
ROE（自己資本純利益率）	4.0%	5.9%	8.0%以上
EPS（1株当たりの純利益）	151円	246円	250円以上
DOE（株主資本配当率）	2.0%	2.0%	2.5%以上

会社概況・株式情報

会 社 概 況

商号	大成温調株式会社
本社	〒140-8515 東京都品川区大井一丁目49番10号 TEL.03(5742)7301㈹ FAX.03(5742)4551
創業	1941年(昭和16年)4月3日
設立	1952年(昭和27年)12月22日
資本金	51億9,505万7,500円
従業員の状況 (2023年3月31日現在)	589名
ISO認証	ISO9001／14001認証取得

ネットワーク 2023年3月31日現在

大成温調株式会社

本社・支店	本社(品川区)、東北(仙台市)、関東(さいたま市)、東関東(千葉市)、横浜(横浜市)、静岡(静岡市)、名古屋(名古屋市)、大阪(大阪市)、九州(福岡市)
営業所	北海道(札幌市)、青森(青森市)、盛岡(盛岡市)、秋田(秋田市)、郡山(郡山市)、茨城(つくば市)、宇都宮(宇都宮市)、群馬(太田市)、我孫子(我孫子市)、千葉県南(鴨川市)、東都(荒川区)、江東(江東区)、多摩(立川市)、厚木(伊勢原市)、山梨(中央市)、三島(三島市)、滋賀(大津市)、京都(京都市)、神戸(神戸市)、奈良(奈良市)、和歌山(和歌山市)、広島(広島市)、四国(高松市)、沖縄(那覇市)
サービスステーション	東北(仙台市)、城南(品川区)、城北(品川区)、東都(荒川区)、城東(江東区)、城西(杉並区)、多摩(立川市)、横浜(横浜市)、厚木(伊勢原市)、千葉(千葉市)、我孫子(我孫子市)、大宮(さいたま市)、太田(太田市)、宇都宮(宇都宮市)、静岡(静岡市)、名古屋(名古屋市)、大阪(大阪市)、福岡(福岡市)

株式の状況 2023年3月31日現在

(1) 発行可能株式総数 …… 27,500,000株
(2) 発行済株式の総数 …… 6,882,487株
(3) 株主数 …… 6,057名
(4) 大株主（上位10名）

株主名	持株数	持株比率
アクアウェッジ㈱	993千株	16.8%
大成温調取引先持株会	666	11.3
水谷日出夫	556	9.4
一般財団法人ぺんぎん奨学財団	350	5.9
大成温調従業員持株会	253	4.3
光通信㈱	90	1.5
河村和平	89	1.5
和田ふみ子	72	1.2
東テク㈱	70	1.2
青木錠衛	60	1.0

(注) 1. 上記のほかに自己株式（986,208株）を保有しており、持株比率は自己株式を控除して計算しております。
2. 2022年5月27日付で、ダルトン・インベストメンツ・エルエルシーより当社株式に係る大量保有報告書（変更報告書）が関東財務局に提出されております。当該大量保有報告書（変更報告書）において、2022年5月20日現在で同社が89千株を保有している旨が記載されておりますが、当社として当事業年度末日における実質保有株式数の確認ができていないため、上記大株主には含めておりません。

株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
基準日 定時株主総会・期末配当	毎年3月31日
中間配当	中間配当を行う場合には9月30日
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社　証券代行部
事務取扱場所 (郵便物送付先)	〒168-0063　東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社　証券代行部
(電話照会先)	0120-782-031
(インターネットホームページURL)	https://www.smtb.jp/personal/procedure/agency/
公告方法	電子公告の方法により、当社ウェブサイトに掲載して行います。 ただし、電子公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。

※その他ご不明な点は、上記の三井住友信託銀行株式会社証券代行部にお問い合わせください。

当社および重要な関係会社（大成温調のグローバルネットワーク）

たてものを、いきものに

LIVZON

大成温調株式会社

本社●〒140-8515 東京都品川区大井一丁目49番10号
TEL.03 (5742) 7301㈹　FAX.03 (5742) 4551

FSC www.fsc.org ミックス 責任ある木質資源を使用した紙 FSC® C013080

VEGETABLE OIL INK

UD FONT